

職員が互いに学び合う研修の場
「まなV I V A ! !」

合志市立西合志南小学校
教職員一同

48人

活動年数：1年

まなVIVA!!

西合志南小学校
No.1
4月4日(火)発行
発行：渡邊

1 目的

- (1) 日頃の不安や悩みを共有し、教職員のつながりを深める。
- (2) いろいろな先生方の実践に学び、教職員の資質能力の向上を図る。

2 対象 いっしょに学びたい方 いろいろな先生の話聞いてみたい方

3 期日 基本的に第1、第3水曜日 月2回

4 時間 基本的に16:30~17:00ごろ 30分程度 ※参加できる時間でOK、途中退出OKです。

5 場所 () 教室

6 内容

参加者の希望を聞いて研修をする。

(例) 学級経営について、体育実技のポイント、生徒指導について、通知表所見の書き方ポイント、
授業検討、宿題、給食指導、掃除指導、音読指導、漢字指導など

※参加されたい方は右のQRコードからアンケートのご協力をお願いします。

7 方法

- ◇基本的に担当者を輪番にして研修を進める。
- ◇ゲストティーチャーをお招きしてお話をいただくこともある。
- ◇ミライムで開催日時を知らせる。
- ◇研修内容やスケジュールは後日お知らせします。

まなVIVA!!アンケート



学びづくり#1
学びのニーズを
リサーチ

令和5年4月
まなVIVA!!始動

二人の若手教諭が
「日々の悩みについて
共に学ぶ場が欲しい!!」
を自ら実現へ

学び万歳!
→まなVIVA!!

自主研修組織の「まなVIVA!!」は、令和5年4月に発足しました。発起人は教員経験10年目、9年目の二人です。二人は、研修日より「まなVIVA!!」第1号でどんな学びをしたいか、リサーチを始めました。

月1～2回
(R5年間20回)

日々の課題や
校内研との関連

若手もベテランも自
分の強みを生かして

学びづくり#3
告知 調整

まなVIVA!! 研修スケジュール

No.	期日	内容	担当者	時間	場所
1	4月4日 (火)	学級開きについて	渡邊	10:00～	旧6年1組教室
2	4月27日 (木)	夢実現コーチング 「夢をかなえるための夢ナビゲーションシステム」	中村勝	16:30～	5年1組教室
3	5月2日 (火)	生徒指導について	渡邊	16:30～	5年1組教室
		学びのUD化	菊池	16:30～	
		を高める工夫	右田	16:30～	6

学びづくり#2
スケジュール
作成

必ず全職員に告知
実施不可は必ず日程調整
中止なし

参加・不参加を問わず
全職員に配付し
全てを共有

学びづくり#5
共有・振り返り

学びづくり#4
実施

講師だけでなく
皆が自分の実
践を披露



少ない参加者
でも和気藹々と
実施



3

アンケート回答をもとに、研修スケジュールが出来ました。「まなVIVA!!」は、延期はあっても中止はありません。また、参加者が少なくても、より親密に話せる機会として実施されます。そうした学びは本校全職員に共有されます。

自己の強みの発見



教職5年目
「学習意欲を高める工夫」について講師を務め、自分の実践を語る。

教職40年以上
「情報を生かす産業」の模擬授業を真剣に、集中して受ける。

人の実践からの学び



まなVIVA!! 4つの効果

自己の強みの伸長



教職10年目
昨年度に引き続きSSTについて講師を務め、自己の理解を更に深める。

栄養教諭4年目
「毛筆指導について」の研修・実技に参加。

学ぶ気持ちの向上



4

「まなVIVA!!」には4つの効果があります。一つは自己の強みの発見です。講師は参加者の学ぶ姿に自信を得ます。二つめは強みの伸長です。時には連続で講師を務め、自信と知識・理解をさらに深めていきます。三つ目は人の実践に学ぶ意識の向上です。年齢や経験年数を問わず、ベテランと若手が実践のやりとりを通して互いに刺激し合います。こうして、四つ目、職員それぞれの学ぶ気持ちは向上していきました。

一生懸命な運営、学び合う雰囲気は、**講師を務めることにも高揚感を覚えるほど充実している。**

各職員とも違う分野で秀でた能力があり、その**普段は隠れている(特に主張されない)能力を活かし、皆で学び合う、**講師役の職員にとっても生徒役の職員にとっても人材活用の良い活動だと思います。

互いの得意分野を共有し合うという**効率のいい研修**になっていると感じます。

まなVIVA!! への職員
の思い

若手を中心に、**自己研鑽に努めようという雰囲気**があり、とてもいいと思う。

初心に返って真摯な気持ちで学ぶことができる楽しい時間です。

- ・昨年度教職に就き、はじめてのことばかりで不安だった中、「まなVIVA!!」の取り組みは**とても心強かった**です。「**教職に対する深い思い**がある先生方がこんなにもたくさんいるのだ」と**心から感動した**のを覚えています。
- ・他の先生方の実践や考えに触れることで**視野が広がっただけでなく、教職員同士の輪も広がった**と感じます。

5

最後に職員からの感想です。「まなVIVA!!」から、実践や知識を学ぶだけでなく、自己研鑽の姿勢や同僚と繋がり、学び合う良さをも学んでいます。そんな教師の姿を見て子どもも学んでいくはずです。二人が企画・運営する自主研修ですが、職員全員が学び手や講師として参加し、作り上げてきたものでもあります。今後も、学校の強みとして大切に継承していきます。

児童がよりよく生きるための自立 活動への取組

大津町立室小学校特別支援教育部

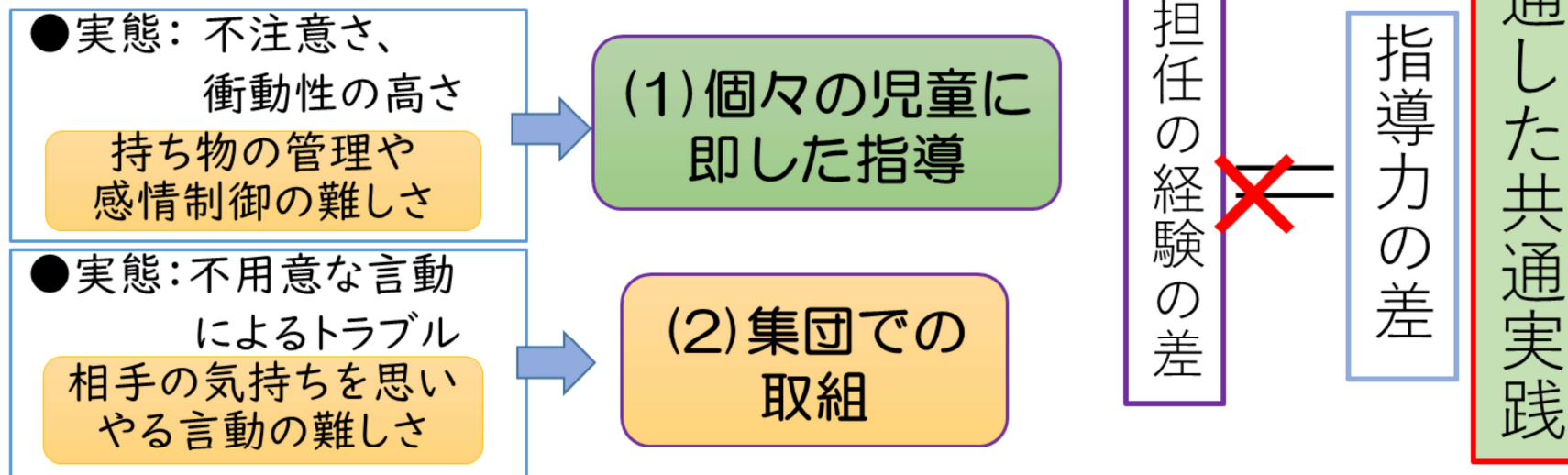
8人

活動年数：2年

1 目的

特別支援学級における**自立活動**を通した
「**自立**」「**課題の克服・改善**」「**調和的発達**」

2 児童の実態と取組の視点



2

児童の実態からこの2つの視点で特別支援教育に取り組みました。また、特別支援学級が8学級あり、それぞれの担任の経験の差が、指導の差にならないように、月2回以上の担任研修を行い、共通実践してきました。

3 実践例

(1) 個々の児童に即した指導
「忘れ物のだいさくせん」

① 目標を記入する「振り返りカード」

② チェックリストで確認(徐々に簡略化)

成果



※具体的手立て

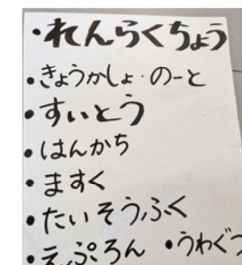


【振り返りカード】



【チェックリスト】

○初期版(左)→○簡易版(右)



- ・9月後半からは、チェックリストなしで、持ち帰り、忘れ物もなくなった。
- ・家庭でも学校の登校の準備を自分でできるようになった。

学校での取組が家庭でも般化

個々の児童に即した指導として「忘れ物ゼロ大作戦」という取組を行いました。児童の実態として、持ち物管理や荷物準備の難しさがあります。そこで、「持ち帰るものを自分で判断し、一人で荷物の準備をすることができる」姿を目指しました。振り返りカードとチェックリストを用いましたが、児童の意欲付けにもつながり、家庭でもできるようになったという声も聞かれました。

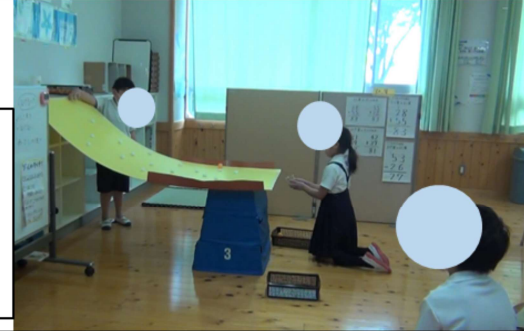
(2) 集団での取組

「みんなで協力してニコニコをあふれさせよう」

※具体的手立て

○ボールキャッチゲーム

- ・ボールを転がす人、キャッチする人、応援する人と役割分担
- ・3人で協力して高得点を目指すゲーム



☆ニコニコ作戦会議

- ・「みんながニコニコでゲームを楽しむには、どんな言動をすればよいか」を話し合う。
- ・教師が、よくない例（「早くしてよ」「何で落とすの」等）も示して、気持ちの共有をした。
- ・ゲーム中に言われてうれしい言葉や、されたらニコニコになる行動を考える。
- ・その言動が出たら「ニコニコポイント」と称して点数に加算する。

集団での実践として「みんなで協力してニコニコをあふれさせよう」という取組を行いました。児童の実態として、相手の気持ちを思いやる言動が難しく、不用意な言動によるトラブルが多く起こっていました。相手のことを考えた言動ができるように、ボールキャッチゲームというゲームを通して、役割分担をし、協力し合うもので、取り組む際に、「ニコニコ作戦会議」を開いて、言動の改善を目指しました。

【ことば】 ・がんばって! ・よかったね! ・すごいね! ・やった~! ・上手だね!	【ころがすとき】 ・ボール1こずつ ・なげない ・相手をしっかり見て	【おとしたとき】 ・どんまい! ・ごめんね ・つぎがんばってね
【ニコニコ作戦会議の記録】		

※成果

相手意識の高まり トラブルの減少

相手を思いやった言動を取ろうとする意欲

「おいしい」「すごい」等ポジティブな言葉

良好な関係性の構築

4 考察

- ・ 個別の指導では、教室からの抜け出しに対応した「言葉で伝えてリフレッシュしよう」などの実践も行った。いずれも振り返りカードの活用は有効であった。
- ・ 集団での指導については、「パーソナルスペースを知ろう」「交流会を成功させよう」などの実践も行った。いずれも、他者と関わることで、自己の在り方について考えたり、学んだりする機会をつくることができた。
- ・ 日々の児童との関わりの中で、よいところを積極的に褒め、また、苦手なところの改善策を一緒に考えていくことで、自分自身を見つめる力の向上につながった。

取組の結果、自分自身を見つめる力の高まりが見られました。また、児童個々の課題解決に向けては、他者との関わりが大切であることも明らかになりました。その関わりをつくっていく過程で、さらなる効果的な取組につなげていきます。

特別支援教育推進のためのＩＣＴの 活用と自立活動の充実

高森町教育研究会特別支援教育部会
(高森中央小学校、高森中学校、高森東
学園義務教育学校)

13人

活動年数：4年

ICTを活用した取り組み



オンライン授業 いつでもつながる状態



スイッチでミシンの操



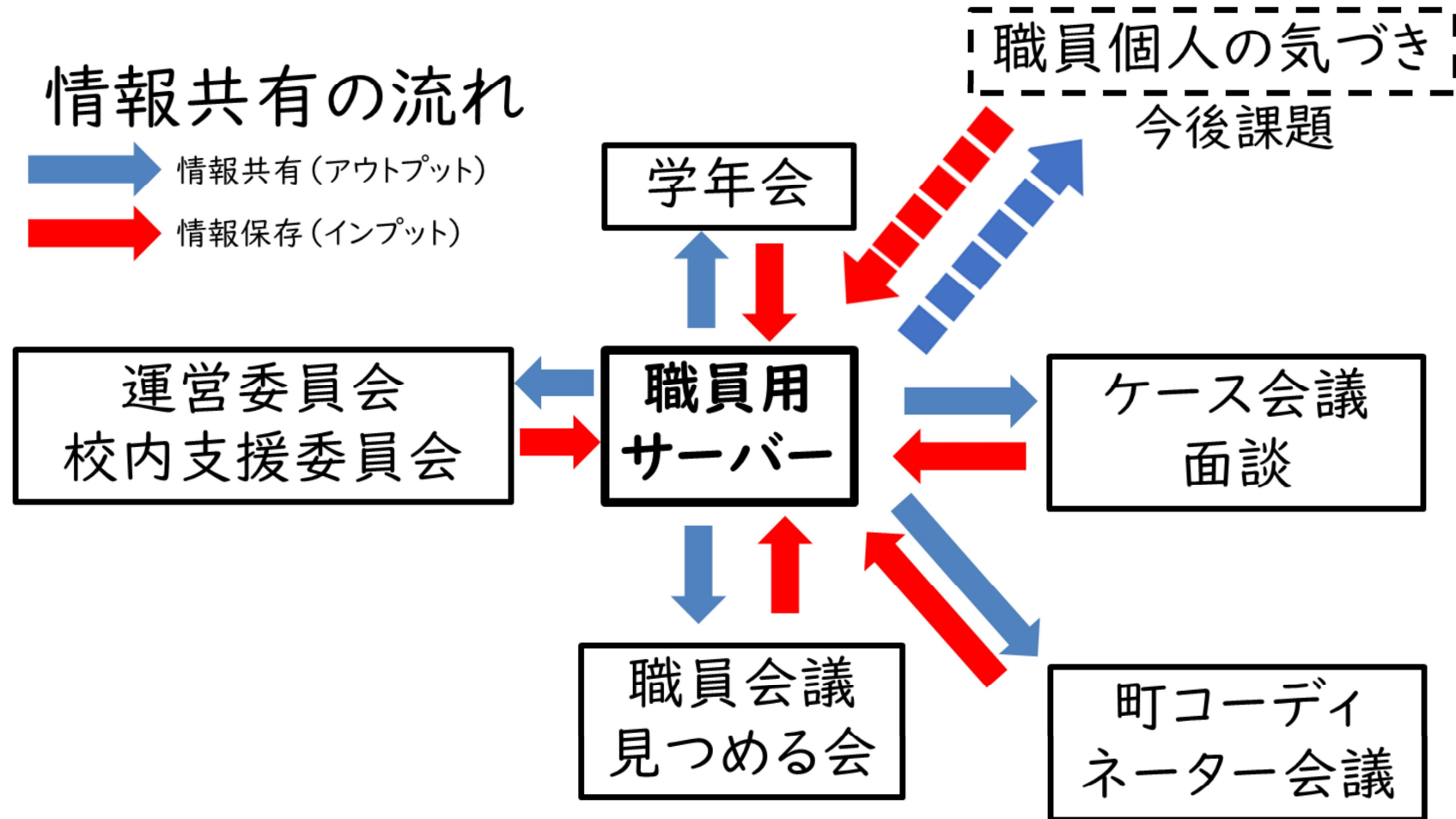
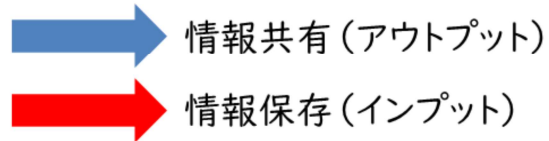
Ipadで文章の記入



Ipadで写真撮影

高森町では、充実したICT機器を活用した特別支援教育の取り組みを実施しています。画像は、肢体不自由の生徒のミシン活動や文字の学習の取り組みの様子です。指先の不器用さや集中力の難しさ等がある中でも、ICT機器を活用することで活動の可能性が広がります。部会は、障がいや特性から活動を限定するのではなく「この活動をするためにICTをどう活用していくか」と前向きな話し合いができる場でもあります。

情報共有の流れ



3

続いて、教職員間の情報共有にICTを活用している様子を紹介します。各学校の教師用サーバーに生徒の情報を集め全職員が閲覧できるようにしています。その内容は、各種情報交換会を通してアップデートし、その内容を確認して会議に参加することで最新の情報でのやり取りができるようになりました。

自立シートの目標設定シート(町独自)

(シート上段)

自立活動目標設定シート (作成日:令和 年 月 日 作成者:)

学年・名前	年 名前()
-------	---------

※課題だけでなく、できる面も記入する。同じ項目が複数回出てきても構いません。

区分	具体的な状況
健康の保持	
心理的な安定	
人間関係の形成	
環境の把握	
身体の動き	
コミュニケーション	

初めて担当される方でも具体的な指導目標を設定しやすいように、必要な段階をまとめたシートを使用している。

・具体的な状況(実態把握)では、児童生徒の実態を6区分で整理し、課題となる部分は色を変えることで、焦点を絞りやすくしている。

① 実態把握を参考に課題の関連性と中心課題の抽出とそれぞれの課題を自立活動の6区分27項目で整理

② 中心課題に基づいた指導目標

③ 目標を達成するために必要な27項目の関連性を文章で簡略化して表記

④ 目標を達成するための具体的な指導内容

①～④を順番に検討することで、対象児童生徒に必要な自立活動の具体的な指導内容を設定することができる。

複数人で内容を検討することで、目標や指導内容について検討している。

定期的に評価と改善をし、児童生徒に適した目標や内容かの検討をしている。

自立活動の目標設定シート作成は、子どもの障がいにより理解しその子どもが社会に出てよりよく生きるために何が必要かを明確にするものです。本格的なシートは作成自体に時間がかかり、経験年数の少ない職員には困難に感じるがありました。そこで、令和4年度から誰でも手軽に取り組める簡易的なシートを町独自で作成し活用しています。

特別支援教育推進についての理解・啓発リーフレット

三つ折り表面

一人一人の特別な教育的ニーズに応じた
多様な学びの場があります

就学前	・幼稚園 ・保育園 ・保育所 ・認定こども園 ・特別支援学校 幼稚園部	関係機関との連携 医療機関 福祉機関等（地域障害者センター、相談支援事業所、放課後デイサービス事業所、発達障がい者支援センター、当事者団体等） 関係機関 （ハローワーク、障がい者就業・生活支援センター等）
小学校 （義務教育学校）	・通常の学級 ・通級による指導（小学校） ・特別支援学級 ・特別支援学校 小学部・中学部	
中学校 （義務教育学校）		
高等学校	・通常の学級 ・通級による指導（令和4年度現在、県立7校にて実施） ・特別支援学校高等部	
高等学校 就労社会参加		

切れ目のない一貫した支援のために、「個別の支援・指導計画」を作成しています。

高森町の特別支援教育関係機関一覧

関係機関名	住所	電話番号
児童発達支援 まのひ アトリエもも	阿蘇郡高森町上色見 1388-1	0967-62-2228
障がい者支援施設 高森寮	阿蘇郡高森町色見822	0967-62-1780
子育て支援センター	阿蘇郡高森町高森 1621-5	0967-62-3311
熊本県立高森高校	阿蘇郡高森町高森1557	0967-62-0185
高森町立高森中学校	阿蘇郡高森町高森1955	0967-62-0226
高森町立高森東学園 義務教育学校	阿蘇郡高森町野尻1897	0967-65-0023
高森町立 高森中央小学校	阿蘇郡高森町高森1100	0967-62-0038
高森幼稚園	阿蘇郡高森町高森 1949-1	0967-62-0094
高森保育園	阿蘇郡高森町高森1610	0967-62-0136
高森町立高森東保育園	阿蘇郡高森町野尻 1894-1	0967-65-0171
高森町立色見保育園	阿蘇郡高森町色見1135	0967-62-2600
高森町役場 健康福祉課 市民福祉課 教育委員会	阿蘇郡高森町高森2168	0967-62-1111

お気軽にご相談ください！

高森町教育委員会 〒869-1602 阿蘇郡高森町大字高森2168	0967-62-0227
--------------------------------------	--------------

特別支援教育推進についての理解・啓発リーフレット

たかもりの虹



高森町
特別支援連携協議会

令和5年（2023年）2月 発行

保護者から教育相談を受けたときに、担当者によって食い違いが生じないように、共有できるリーフレットが必要だということで作成した「たかもりの虹」です。

半世紀以上にわたる活動と管内理科教育の推進

人吉球磨理科教育研究会

（人吉球磨管内小・中・義務教育学校理科担当者及び理科免許保有者）

60人

活動年数：60年

1

人吉球磨理科教育研究会

活動の内容

- 理科授業研究会
- 理科実技研修会
- 芦北水俣地区との
合同研修会
- 退職者との情報交換会
- 郡市科学展、発明展等



**人吉球磨の
理科教育
振興に寄与**

※人吉球磨理科教育研究会は人吉球磨学校教育振興協議会の単位研究団体

2

本研究会は、長年にわたり先輩教師から引き継がれ、人吉球磨の理科教育の振興に寄与して参りました。そこで、活動を3点に絞り、ご紹介します。

長年にわたって積み重ねてきた活動の成果

① 理科授業研究会

- ・ 小・中合同で年2回実施
(60年以上前から実施)
- ・ 研究部で授業者をサポート
(学習構想案の検討、教材作成等)

- 授業力の向上
- 若手・中堅の
人材育成
- 小中学校間の
連携



小学校での研究授業の様子

② 理科実技研修会

- ・ 研修講師は指導主事、
中堅・ベテラン教師 等
- ・ 授業づくりや演習、観察会、
教材づくり等を実施

- 困り感や不安
感の解消
- 授業の実践化
- 地域自然の理解



演習「小・中の接続を見据えた体系的な授業づくり」の様子

3

1点目は、理科授業研究会です。小・中合同で研究授業、授業研究会を年2回実施しています。学習構想案の検討や教材研究等、研究部を中心に授業者のサポートを行っており、授業力の向上、若手・中堅教師の人材育成、小・中学校間の連携が図られています。

2点目は、理科実技研修会です。経験年数が浅い授業者の困り感や不安感の解消、質の高い教材づくりなど、参加者のニーズに応じた研修内容で実施し、単元構成の検討や教材作成等、各学校での実践化につながっています。

③ 芦北水俣地区との合同研修会

- 毎年交互に実施
(昭和41年度～)
- 互いの地域の自然観察や
授業実践、研究発表
- 専門家の講話 等



- 芦北管内との交流
- 地域自然を広く理解
- 授業の実践化



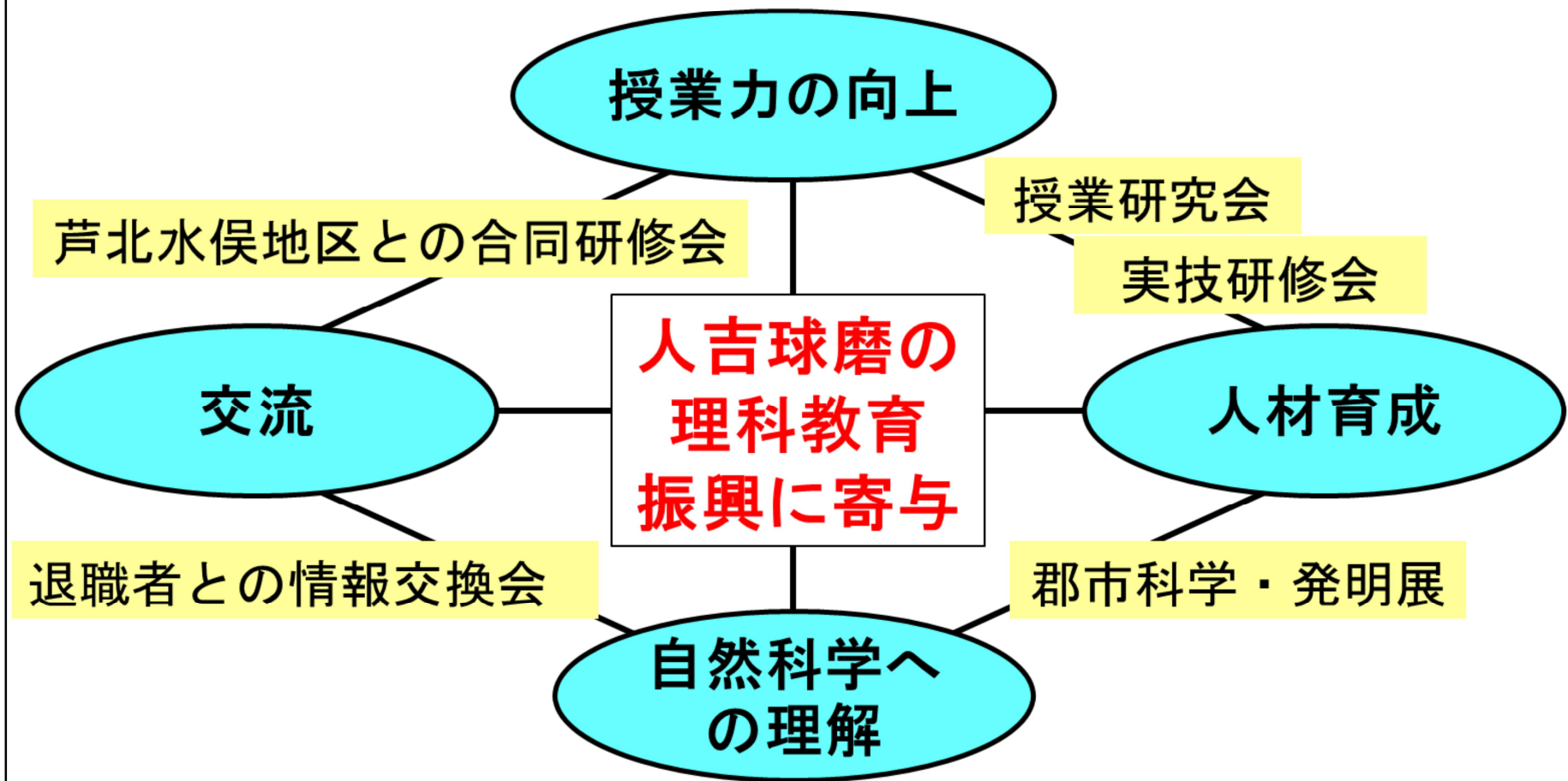
R5年度【球磨管内で開催】
県営市房ダム見学でダムの内部について説明を受ける様子



R6年度【芦北管内で開催】
水俣市湯の児海岸での海生生物観察の様子

3点目は、芦北水俣地区との合同研修会です。芦北管内の教職員との交流を図り、互いの地域の自然観察、実践発表や講話等は、会員の新たな学びとともに、会員同士の交流、その後の授業づくりに生かしています。この活動は毎年交互に実施しており、昭和41年度から続く他に例のない取組です。

人吉球磨理科教育研究会が長年にわたって積み重ねてきた活動の成果



5

本研究会は昭和から平成、令和と連綿と引き継がれてきた研究組織です。

今後も、本研究会の活動が、授業力の向上、人材育成、交流、自然科学への理解の深まりなどを通して、人吉球磨の理科教育の振興に寄与できるよう取り組んで参ります。

「地域に根ざし地域に開かれた 学校」としての連携・協働

熊本県立天草高等学校倉岳校
教職員一同

13人

活動年数：8年11月

ALL倉岳で取り組む 「倉岳町幼保小中高18年間の子どもの見取り教育」

たっしゃか倉岳っ子見取り

倉岳の子ども達の育ち(18年間)を見守るために・・・

2012 作成 2016 一次改訂 2018 二次改訂 2020 三次改訂 2021 四次改訂

	就 学 前	小学生(1・2年)	小学生(3・4年)	小学生(5・6年)	中学生	高校生
あいさつ	親しみをもって、誰にでもあいさつができる	相手に聞こえる、明るく、元気なあいさつができる	時と場に応じた気持ちのよいあいさつができる	語先後礼のあいさつができる	語先後礼のあいさつができる	その場にあったあいさつや行動ができる
役割	自分のことは自分でできる	毎日、手伝いができる		毎日、自分でできた手伝いができる	家族のために、毎日、自分でできた手伝いができる	自らすすんで、感謝を形にした手伝いができる
食 事	できていますか？ ◎「いただきます」「ごちそうさま」 ◎栄養バランスのとれた食事 ◎家族そろっての食事	できていますか？ ◎決まった時間の食事 ◎準備や片付けの手伝い ◎3品以上(主食、主菜、副菜)の食事 ◎家族そろっての食事			できていますか？ ◎調理や配膳などの手伝い ◎3品以上(主食、主菜、副菜)の食事 ◎家族そろっての食事	
睡 眠	約10時間(21:00までに就寝) テレビを消し、子どもが寝付くまで赤い寝をしましょう 十分な睡眠がとれるような生活リズムをつくりましょう	約9時間(21:00までに就寝) 生活リズムができるよう声をかけをしましょう		約8時間(目標を立てて就寝) 自ら考えて生活リズムをつくるよう声をかけましょう	約7時間(目標を立てて就寝) 毎日の計画を立て、習慣化する 家族みんなで十分な睡眠時間がとれるよう心がけましょう	
健 康 安 全	交通事故・火の事故・水の事故に気をつけ、命を大切にする 地震・水害・火事について避難の方法を知る 感染症予防の大切さを学び実践する	交通ルールを守って登下校する 「おかしめ」を守ってすばやく避難する 手洗い・うがいの習慣を身につける		交通ルールを守って登下校する 災害時にすばやく避難場所へ避難する 感染症予防のための知識を身につけ実践する	危険を予測し、交通ルールを守って登下校する 地震・津波のメカニズムを理解し、すばやく避難場所へ避難する 感染症予防のための知識を身につけ実践する	
学 び	夢中に遊ぶ 絵本に親しむ	1年20分、2年30分 毎日宿題をきちんとする	3年40分、4年50分 毎日宿題をきちんとする 自学に挑戦する	5年60分、6年70分 毎日、計画的に宿題や自学に取り組む	120(休日150)分以上 自分の長所や適性を伸ばす学習をする 苦手教科の克服に努める	120(休日180)分以上 進路を意識し、これに応じた学習に主体的に取り組む
携 帯 等	おうちのルールを守っている	テレビ、ゲーム、スマホの「我が家のルール」を守っている				ルールを守り、SNSの正しい使い方をしている

※週・学校がわかる子ども達を守り育てる取組・・・保中高合同避難訓練 幼小合同避難訓練 幼保小中高合同防災演習 保不審者対応避難訓練(中高職員参加)

・年2回幼保小中高及び地域の代表による「たっしゃか倉岳っ子連絡会」を開催

・町内年間行事の作成と高校までの「18年間の子どもの見取り教育」を計画・実践

倉岳町では、幼保小中高及び地域の代表が「たっしゃか倉岳っ子連絡会」で町内の行事等の調整の上、年間町内行事予定を作成しています。加えて幼稚園から高校までの「18年間の子どもの見取り教育」を計画し、倉岳校も「地域の学校」として教育実践に取り組んでいます。

盛んな地域交流～「ボランティア活動推進校」として



・天草市社会福祉協議会主催「笑顔くらんたけ交流会」で運営補助ボランティアとして参加



・倉岳まちづくり協議会主催「倉岳町ふるさとまつり」への参加及び運営補助による交流

3

毎年、天草市社会福祉協議会から「ボランティア活動推進校」としての認可を受け、学校全体でボランティア活動に取り組んでいます。「笑顔くらんたけ交流会」や「倉岳町ふるさとまつり」などで生徒がボランティアとして運営を補助したり、出演したりして、町内行事の活性化に貢献しています。

盛んな地域交流



・学校行事「秋桜祭」(文化祭)では、地元の音楽団体や小中学生を招くなど、倉岳町の様々な組織・団体と積極的な交流に取り組み、「地域に根ざした学校づくり」を推進

学校の文化祭では生徒会が主体となって企画・運営を行い、令和5年度は地元の音楽団体や小中学校の合唱クラブを招くなど、様々な組織・団体と積極的な交流に取り組みました。

地域に開かれた学校



・平成28年度から5月末に幼保小中高合同での「えびすビーチ清掃活動」を主催し、天草市倉岳支所や地域のボランティア等も含め、R6年度は総勢約150名が参加



・保育園や中学校と合同で防災避難訓練を実施し、大災害時における地域連携を強化

幼保小中高合同での町内清掃活動は、今年で9年目を迎えています。「実質的な企画・運営を倉岳校が担当しており、参加者は幼保小中高の児童生徒・職員及び地域のボランティアなども含め総勢約150名に及び、例年メディア等にも取り上げられています。

ほかにも、各校防災担当者が主体となり、津波等の大災害時における連携を強化した保中高合同の防災避難訓練を実施しており、「地域に開かれた学校づくり」を推進しています。